

Ⅱ 社会科の問題と 結果・分析

● 分析ページの構成と見方について

(1) 「出題のねらいと評価」について

「内容」ごとに①～⑦までの大問を示した。「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断」「資料活用の技能・表現」「社会的事象についての知識・理解」の4観点に該当するものを○印で示した。

(2) 「正答と主な誤答例」について

主な誤答例については、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いものを示した。

(3) 「結果の考察と分析」について

- ・ 大問ごとに設問・正答・結果等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。
- ・ 平成13年度及び15年度に実施された国立教育政策研究所の調査問題と同一の問題については、「結果の考察と分析」の表中、「国の正答率」としてその数値を表記した。また、参考数値として国立教育政策研究所の調査問題に類似したものについては、数値の下に「*」をつけて示した。本市独自に作成した問題については「/」とした。

(4) 「まとめ」について

本調査結果の概要と、調査結果を踏まえた指導上の改善点について記した。

Ⅱ 問題と結果・分析

1 出題のねらいと評価

1社会的事象への関心・意欲・態度 2社会的な思考・判断
3資料活用の技能・表現 4社会的事象についての知識・理解

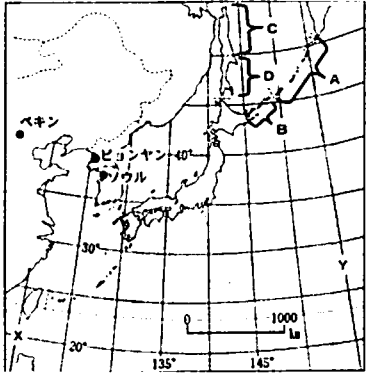
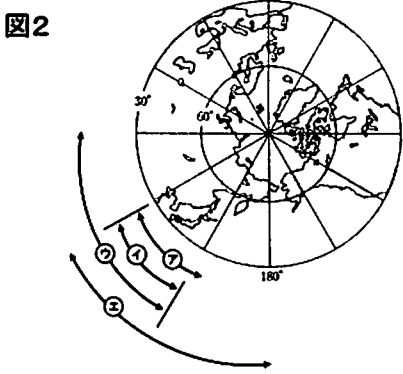
内容	大問	小問	出題のねらい	評価			
				1	2	3	4
世界の地域構成	1	(1) ①	南回帰線が通過している国の位置と名称を身に付けている。				○
		(1) ②	本初子午線が通過している国の位置と名称を身に付けている。				○
		(1) ③	国土の面積が日本より大きいアジアの国の位置と名称を身に付けている。				○
		(2)	関心のある国の位置と名称を身に付けており、その国の地域的特色を明らかにするための調査課題を設定することができる。	○			○
日本の地域構成	2	(1)	日本の地球表面上の位置と広がりを理解している。			○	
		(2)	北方領土の範囲を地図上で理解している。				○
		(3)	日本のまわりにある国々の首都と東京の位置関係や国土面積の大きさを理解している。			○	○
身近な地域の調査	3	(1)	地形図の特質と主な地図記号の意味を理解している。				○
		(2)	地形図をルートマップとして活用することができる。			○	
		(3)	地形図中の道路の様子を土地の起伏と関連付けて読み取ることができる。			○	
		(4)	様々な時期の地形図を読み取り、工業団地ができた理由を推察することができる。		○		
		(5)	新旧の地図を比較して地域の主な変化を読み取り、適切に説明することができる。			○	
都道府県の調査	4	(1)	資料を基に、鳥取県全体と四つの市の面積と人口について読み取ることができる。			○	
		(2)	資料を基に、鳥取県内の四つの市の特色を読み取り、それらの位置を判断することができる。			○	
		(3) ①	鳥取県全体の産業に関する表を基に、県全体でみた場合の産業の変化を表す表を作成することができる。			○	
		(3) ②	鳥取県全体で見た場合の産業の変化を表す表を読み取り、その変化を適切に表現することができる。			○	
歴史の流れ	5	(1)	西暦1年が年表中の弥生時代に入ることを理解している。				○
		(2)	鎌倉時代から江戸時代までが中世・近世という時代区分にあてはまることを理解している。				○
		(3) ア	藤原道長が平安時代に活躍した人物であることを理解している。				○
		(3) イ	足利義満が室町時代に活躍した人物であることを理解している。				○
		(4) ①	安土桃山時代にみられた服装の特色を資料から読み取ることができる。			○	
		(4) ②	時代の移り変わりを学ぶ学習において、興味・関心があるものを取り上げて調べようとしている。	○			
古代までの日本	6	(1)	稲作に関する資料を基に、弥生時代の生活の特色を考察できる。		○		
		(2)	縄文時代と弥生時代の特色の中から弥生時代だけにみられる特色を理解している。				○
		(3) A	様々な資料の中から弥生時代に関するものを選択できる。				○
		(3) B	弥生時代に関する資料を選び、その資料から弥生時代の特色を指摘できる。			○	
文化財	7	(1)	文化財をある視点に立って、分類できる。			○	
		(2)	各時代の文化財の特色を理解し、年代順に並べることができる。				○

2 正答と主な誤答例

内容	大問	小問	正 答	主な誤答例
世界の地域構成	1	(1)①	オーストラリア 47/チリ 9/ブラジル 11/ アルゼンチン 10/南アフリカ共和国 26/他	インド/ロンドン/エジプト/中国 /位置の番号間違い
		(1)②	アルジェリア 13/イギリス 59/フランス 64/スペイン 68/マリ 16	ロンドン/エジプト/ブラジル/ドイ ツ/ガーナ/位置の番号間違い
		(1)③	中国 50/モンゴル 51/インド 38/タイ 42/ カザフスタン 34/サウジアラビア 30/他	アメリカ/韓国/北アジア/東南アジ ア/北朝鮮/位置の番号間違い
		(2)	〔選択した国の地域的特色を明らかにす る内容で位置の番号が正しければ正答〕	なぜアメリカ人は背が高いのか/ロ シア「最近の武器」
日本の 地域構成	2	(1)	A	イ ウ
		(2)	B	A
		(3)	1	2
身近な地域の調査	3	(1)	3	2 4
		(2)	3	4
		(3)	2	1
		(4)	4	1 2 3
		(5)	〔新旧の地図を比較して、土地利用など の変化を述べていれば正答〕	いろいろ増えて、細かくなった/家 が増えて、人口も増えた/他
都道府県の調査	4	(1)	2	1
		(2)	3	4
		(3)①	X: 7 2 1・Y: 6・Z: 1 1, 1 2 7	X: 920、117.2、2359、900 Y: 17.2、1844、3.0、5 Z: 20、680、4. 8 5 9、2000
		(3)②	〔完成した表に基づいて表を読み取って 述べていれば正答〕	どんどん落ち込んでいる/全ての項 目が年々増加している/食べ物が減 っている/他
歴史の流れ	5	(1)	B	C A
		(2)	2	4
		(3)ア	3	4
		(3)イ	1	2 4
		(4)①	2	4
		(4)②	〔食事、住居など身のまわりの生活にか かわることであれば正答〕	政治/庶民の生活等具体的に記述し ていない例
日本 古代までの	6	(1)	〔稲作を行い、米を主食にしていること が説明できていれば正答〕	石包丁で魚を切っていた/武器を持 つようになった/石包丁で調理し て、高床倉庫に蓄えていた。
		(2)	4	1
		(3)A	2	1
		(3)B	2	1
の世・古代・中 文化・近世	7	(1)1	イ エ	ア オ
		(1)2	ウ カ	エ オ
		(2)	3	4

3 問題と結果の考察－ 1

(単位：％)

内 容	大 問	小 問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校正答率
世界の地域構成	1	(1) ①	白地図中の 1～70 の国の中から南回帰線が通っている国の名前と番号を一つずつ答える。	オーストラリア、チリ、ブラジル他	45	72	
		(1) ②	①と同じ白地図を基に、本初子午線が通っている国の名前と番号を一つずつ答える。	イギリス、フランス、スペイン 他		46	
		(1) ③	①と同じ白地図を基に、国土面積が日本より大きいアジアの国の名前と番号を答える。	中国、モンゴル、インド 他		59	
		(2)	白地図中の 1～70 の国の中から関心のある国の地域的特色を調べるときの課題と位置を答える。	《 略 》		59	
日本の地域構成	2	(1)	次の図1と図2をみて、日本の領域の大部分が位置する図1中のXとYの経線の範囲を図2のア～エの中から一つ選んで、答える。  図1  図2	ア		24	
		(2)	(1)の図1で、北方領土の範囲をA～Dの中から一つ選んで答える。	B		52	
		(3)	日本のまわりにあるロシア連邦、中華人民共和国、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国について述べた1～4の中から適切なものを選んで答える。 1 東京から一番近い国の首都はソウルである。 2 東京から一番近い国の首都はペキンである。 3 首都はすべて東京より南にある。 4 国土面積はすべて日本より大きい。	1		70	

世界の地域構成

(1) 結果の概要

- ① (1) ① 正答率は高かった。主な正答をみると、「オーストラリア」と解答している生徒が圧倒的に多く、次に「チリ」、「ブラジル」と続く。
- ② 無答率が19%と高かった。本初子午線が通過している国は、ヨーロッパとアフリカの国であるが、「イギリス」と解答した生徒が多く、その次に解答できる国が少ないことが分る。
- ③ 主な正答をみると、「中国」と解答した生徒が圧倒的に多かった。その他では、「モンゴル」「インド」と解答した生徒が少数いた。
- (2) この設問は「関心のある国の位置と名称が正確に理解している」「その国の地域的特色にかかわる調査課題を設定することができる」という2つの条件を満たしていないと正答にならない。正答率は、比較的高かった。オリンピックやワールドカップで知っている国など日常生活の中で興味・関心をもっている国について解答している生徒が多かった。

(2) 指導のポイント

あらゆる機会をとらえ、地図帳の活用を図る

- 国名は「忘れるもの」という認識をもつことが必要
- 歴史を含め、常に地図帳を手元に置き、開くことを習慣付ける。
- 評価テストに地図を活用して解答する問題を取り入れる。

あらゆる機会をとらえ、世界の国々に親しませる

- 日常生活の中で、興味・関心をもつ国を増やしてることが大切
- 夏や冬のオリンピック等、話題になり、テレビや新聞に多く登場する国を積極的に取り上げる。
- 興味・関心をもった国について、図書館等で更に詳しく調べる学習活動を設定する。

日本の地域構成

(1) 結果の概要

- ② (1) 正答率は非常に低かった。誤答では半数の生徒がイを選んでおり、なんとなく「広がり」はとらえられているが正確には理解できていない状況である。二つの地図の経線を十分見比べることができていないと思われる。
- (2) 昨年度の調査では、「北方領土」と記述式で答える設問で、正答率は74%(無答率11%)であった。今年度は位置を選ぶ設問である。正答率は52%(無答率4%)であった。この結果から、名称は理解しているが位置は分らない生徒が2割くらいいることがうかがえる。
- (3) 日本のまわりにある国々の首都と東京の位置関係や国土面積の大きさを理解しているかを問う設問である。正答率は高かった。

(2) 指導のポイント

様々な方向から地球を眺める学習を設定する

★生徒は限られた種類の世界地図を頻繁に活用している現状がある。



★固定化された世界観を身に付ける傾向になる。



- 地球儀を教室に設置する等、日常的に地球儀に触れ、眺められる環境整備づくりを行う。
- パソコン用地図ソフトを活用し、地球を様々な方向から見る指導を行う。

「地名は理解しているが、位置がわからない」に対する指導

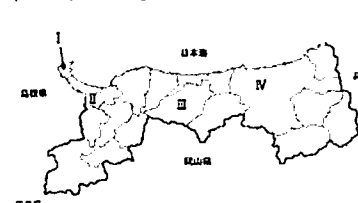
★地名は理解しているが、位置はわからないという現状



- 「地図帳を頻繁に引かせる」指導を心がける。
- 評価テストに一工夫加える。
 - ・語句や地名だけを答えさせない。(地図上の位置を記号で選択させたり、色鉛筆で着色させたりする。)
 - ・「様々な図法」や「様々な方向から見た地図」を活用する問題を出題する。

3 問題と結果の考察－2

(単位：％)

内容	大問	小問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校正答率																									
身近な地域の調査	3	(1)	国土地理院発行の地形図(5万分の1、2万5千分の1)からでは読み取れないものを次の1～4から一つ選んで答える。 1 縮尺を手がかりにして、実際の距離を知る。 2 ある地点からみた別の地点の方位を知る。 3 土地利用の記号から農作物の収穫高を知る。 4 水準点や等高線から土地の高さを知る。	3	63 *	68																										
		(2)	2万千分の1の地形図を基に、文章化されたルートを地図上で歩き、目的地(到達地)を答える。 1 寺院 2 郵便局 3 警察署 4 病院 	3	49 *	47																										
		(3)	地形図中の「黄金原地区から「市役所」までの道のようすを答える。 1 まっすぐで、平坦な道が続いている。 2 まっすぐで、緩やかな下り坂が続いている。 3 まっすぐで、緩やかな上り坂が続いている。 4 まっすぐで、上り下りの多い道路が続いている。	2	47 *	64																										
		(4)	新旧の三つの地形図を基に、工場が多くなった理由として、 <u>地形図では読み取れないもの</u> の一つ選んで、答える。 1 近くに大きな川があつて、大量の水が確保できた。 2 工場を建設するための広い用地が確保できた。 3 道路や鉄道が多く通り、交通の便がよい。 4 気候が温暖で、労働者の働く環境条件がよい。	4	/	66																										
		(5)	新旧の二つの地形図を基に、地域の変化を読み取って、説明する。	《略》		54 *	68																									
都道府県の調査	4	(1)	鳥取県全体と四つの市の面積と人口に関する情報から <u>不適切なもの</u> を答える。 1 四つの市の人口の合計は、鳥取県全体の人口の2分の1以上を占めている。 2 四つの市の面積の合計は、鳥取県全体の面積の2分の1以上を占めている。 3 四つの市の人口を比べると、上位二つの市と他の二つの市では大きな差がある。 4 四つの市の面積を比べると、一つの市が著しく小さい。	2	49 *	57																										
		(2)	鳥取県の四つの市のそれぞれの面積を基に、四つの市の位置を答える。  <table><tr><th></th><th>I</th><th>II</th><th>III</th><th>IV</th></tr><tr><td>1</td><td>d市</td><td>a市</td><td>c市</td><td>b市</td></tr><tr><td>2</td><td>d市</td><td>c市</td><td>a市</td><td>b市</td></tr><tr><td>3</td><td>d市</td><td>b市</td><td>c市</td><td>a市</td></tr><tr><td>4</td><td>d市</td><td>c市</td><td>b市</td><td>a市</td></tr></table>		I	II	III	IV	1	d市	a市	c市	b市	2	d市	c市	a市	b市	3	d市	b市	c市	a市	4	d市	c市	b市	a市	3	62 *	63	
			I	II	III	IV																										
		1	d市	a市	c市	b市																										
2	d市	c市	a市	b市																												
3	d市	b市	c市	a市																												
4	d市	c市	b市	a市																												
(3) ①	鳥取県の全体の2004年度の「農業生産額」、「漁獲量」、「工業製品出荷額」の表を完成させる。	X:721 Y:6 Z:11,127	68 *	70																												
(3) ②	鳥取県全体でみた、産業の変化を説明する。	《略》	/	37																												

身近な地域の調査

(1) 結果の概要

- ③ (1) 正答率は比較的高かった。地図記号などの地形図から読み取れる情報を理解していると思われる。
- (2) 正答率は低かった。地図記号・縮尺・方位の三つの情報活用の技能が確実に定着していない状況が考えられる。
- (3) 地図中の標高を表す数値に着目できるかが正誤を左右した。主な誤答例で「1」を解答している生徒が多いことから平面である地図を立体的に読み取れない生徒が多いと思われる。
- (4) 正答率は比較的高かった。推察する手段として地形図では読み取れないものを理解できていると思われる。
- (5) 正答率は68%と高く、地図からの読み取った情報を活用し、記述できる生徒が多いと思われる。その一方で、無答率が高く、書くことが苦手な生徒が多いと思われる。

地図記号・縮尺・方位など、生徒に地形図の読み取りを正確に行わせる指導

○興味・関心をもたせる

- ・ 単元全体の導入で、教師が意図する様々な地域写真を準備して、地形図と比較する。
- ・ 地域調査の明確な目標をもたせながら読図技術を指導する。

○実体験の中で理解させる

- ・ 縮尺の大きな地図をもたせ、地図と現地の様子との対応関係に気付かせる

生徒が地形図に興味をもち、実体験を基に有用性を感じることで意欲的に学習できる。

都道府県の調査

(1) 結果の概要

- ④ (1) 正答率は比較的高かった。その理由として、資料や設問中の選択肢を一つ一つ丁寧に検証できたこと、計算力が身に付いていることが考えられる。
- (2) 様々な情報の中から「面積」に着目して判断している生徒が多かったと考えられ、正答率は比較的高かった。資料活用を重視した各校の指導の成果が表れたと考えられる。
- (3) ① 正答率は高かった。その一方で無答率が14%と高かった。統計などの表の読み取りに課題があると思われる。
- ② 正答率は低かった。また、無答率は20%と全設問中最も高かった。主な誤答例では、農業・漁業・工業の各視点から抽象的な記述が多かった。複数の視点からの考察に課題があると思われる。

2 指導のポイント

統計資料の読み取りを意欲的に行わせる指導

- 統計資料や地図帳を常に手元に準備させ、活用する機会を多くする。
- 資料の読み方・考え方のスキルを丁寧に指導する。
- 表の統計資料をグラフ化・地図化して、思考力を高めさせる。
- 表の統計資料から情報を読み取り、更に、気付いたことや自分の考えを書かせたり、発表させたりして、表現力を高めさせる。

(單位：%)

歴史の流れ

歴史の流れ

(1) 結果の概要

- 5 (1) 西暦1年が年表中の弥生時代に入ることを理解しているかを問う設問である。年代の表し方は、その後の歴史学習で活用する基礎的・基本的事項であるが、正答率が32%と非常に低かった。
- (2) 鎌倉時代から江戸時代までが「中世」と「近世」という時代区分にあてはまる事を理解しているかを問う設問である。約半数の生徒が正答しておらず、「古代」・「中世」・「近世」等の普遍的な時代区分が身に付いていないと思われる。
- (3) アとイ、共に正答率は60%を超えた。平安時代や室町時代のおおまかな特色が理解できていると思われる。各学校での人物学習の成果が表れたと思われる。
- (4) ① 年表を見て、その時代の服装を答える設問である。正答率は比較的高かった。各時代の特色を服装の面からおおむね理解できていると思われる。
- ② 時代の移り変わりを調べる学習において、生活にかかわりのあるものから、興味・関心のあるものを取り上げて、テーマを設定する設問である。正答率は高かった。自ら課題を設定し、調べる学習活動が日常的に取り入れた学習の成果が表れたと考えられる。

(2) 指導のポイント

大問5では、小問(1)と(2)の正答率が比較的低かった。「時代や年代の表し方」の定着状況に課題があると思われる。「西暦年」・「年号(元号)」・2種類の「時代区分」(原始→古代→中世→…・縄文→弥生→古墳→奈良→…)について、継続的に指導することが大切である。

常に年表を活用した指導の充実を心掛ける

- ・現在学習している時代を歴史全体の中で、どこにあたるかを略年表を板書して、毎時間確認する。
- ・常に年表を活用した指導を心掛け、歴史の大きな流れの中で、各時代の特色や変化を学習できるようにする。
- ・年表を活用する指導の充実に努め、歴史的な事柄の確認だけでなく、様々な時代区分で表したり、自分で年表を作成してまとめたりするなど、多様な年表の活用に努める。その際、時代や年代の表し方に重点をおいて指導する。



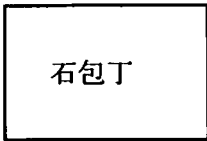
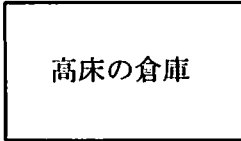
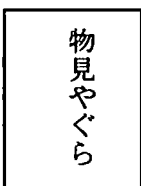
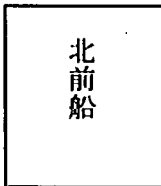
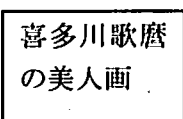
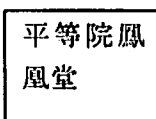
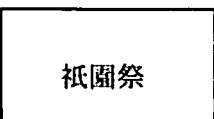
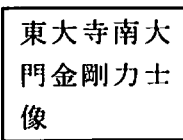
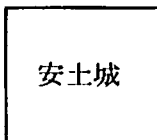
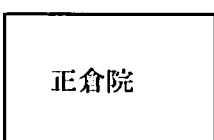
5/6 (水) 弥生時代になって、人々の生活はどう変化したのか!

B.C 1世紀 | 1世紀 | 2世紀 | 3世紀

今日、学習する弥生時代はどのあたりかな?

3 問題と結果の考察－4

(単位：%)

内 容	大 問	小 問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校正答率
古代までの日本	6	(1)	次の A と B の資料を使って、弥生時代の生活について説明するとき、A と B のそれぞれの使い方からわかる弥生時代の生活のようすを説明する。 A  B 	《略》	53	45	
		(2)	次の1から4の弥生時代の特色についての意見の中で、 <u>縄文時代にはない、弥生時代だけの特色</u> を一つ選んで、答える。 1 土器で煮ることで、多くの種類の物を食料にすることができたね。 2 むらの一角に、貝がらや骨などが厚い層になっているのが見つかるよ。 3 人々は地面を掘り下げて、柱に屋根をかけた住居に住んでいたね。 4 一部のむらびとの墓に銅剣などの宝物が収められている場合が多いね。	4	36	36	
		(3) A群	次のア～エまでの資料の中から弥生時代の特色を表す資料の組み合わせを一つ選んで、答える。 ア  イ  ウ  エ  1 アとイ 2 アとウ 3 イとエ 4 ウとエ	2	/	77	
		(3) B群	(3) A群の資料の組み合わせの説明として、ふさわしいものを一つ選んで答える。 1 …みな、同じような大きさの家に住んでいた。 2 …むらどうしの戦いが行われるようになった。 3 …むらの支配者のために巨大な古墳が築かれた。 4 …多くのむらで、日本的な音楽が演奏された。	2		63	
古代・中世・近世の文化財	7	(1)	次のア～カの文化財の中から、下の【視点1】、【視点2】にあてはまるものを二つずつ選んで、答える。 ア  ウ  オ  イ  エ  カ  【視点1】武士の好みや生活を表している文化財 【視点2】天皇や貴族の生活とかかわりのある文化財	視点1 イ 視点1 エ 視点2 ウ 視点2 カ	46 * 49 *	40 46 65 46	
		(2)	1～4のうち、年代の古い順に正しく並べたものを答える。 1 ア→ カ→ オ 2 ア→ オ→ ウ 3 イ→ オ→ エ 4 エ→ カ→ イ	3	54 *	57	

古代までの日本

(1) 結果の概要

- 6 (1) 石包丁と高床の倉庫の二つの写真資料を基に、弥生時代の生活の特色を説明する記述式の設問である。正答率は比較的低かった。石包丁の使われ方について誤答例から判断すると、歴史用語の知識が定着していない状況がみられる。また、二つの資料が稲作に関するものと判断できていない生徒も多いと思われる。
- (2) 縄文時代と弥生時代に関する文章の中から弥生時代だけにみられる特色を表すものを選択する設問である。正答率は低かった。前時代にはみられない「一部のむらびとの墓に銅剣…」を支配者の出現ととらえることができない生徒が多かったと思われる。
- (3) A群 四つの資料から弥生時代に関するものを二つ選択する設問である。正答率は高かった。「かめ棺」と「物見やぐら」は小学校や中学校で取り扱われており、各学校における指導の成果が表れたと思われる。
- B群 四つの文章の中から弥生時代に関するものを選択する設問である。(2)の設問と同様の設問であったが、正答率は高かった。(2)のように「他の時代と比較」して、時代の特色をとらえることに課題があると思われる。

(2) 指導のポイント

基本的な歴史用語等、知識を定着させ、深める指導を心掛ける

- ・歴史用語辞典や国語辞典、資料集等で歴史用語の意味を調べる習慣を付けさせる。
- ・生徒の「わかる」段階を考慮して指導する。
石包丁を例にすると…

- ① 「石包丁」という用語がわかる
- ② " は「何で(素材)」「いつ」、「なぜ」作られたかがわかる
- ③ " の「作成過程」にはどんな難しい問題があったのかがわかる
- ④ " の発明によって、「人々の生活」がどう変わったかがわかる

辞書には「弥生時代の石器の一つ。長さ10cm内外で、穀類の穂を摘み取るのに用いた」と書いてあります。
(「大辞泉」より)



古代・中世・近世の文化財

(1) 結果の概要

- 7 (1) 視点1 文化に関する複数の資料の中から、武士の好みや生活に関するものを選択する設問である。正答率は低かった。「東大寺」＝「僧侶」と判断した生徒が多く、文化の学習において、その文化の担い手について理解することに課題があると思われる。
- 視点2 天皇や貴族の生活とかかわりのあるものを選択する設問である。「平等院鳳凰堂」は選択できているが、「正倉院」を選択している生徒は少なかった。視点1と同様、文化の担い手について理解することに課題があると思われる。
- (2) 各時代の文化財等を年代順に並べることができるかを問う設問である。やや難問であるが正答率は高かった。選択肢の並び方から、「喜多川歌麿の美人画」は江戸時代、「安土城」は安土桃山時代であることを理解していることが高い正答率になったと思われる。

(2) 指導のポイント

文化を生み出した担い手や背景に着目させる指導を心掛ける

- ・文化を生み出した担い手や時代背景が顕著に現れている代表的な事例を取り上げて指導する。
- ・身近な生活とかかわりのある文化財を取り上げて、現在とのかかわりに目を向けさせ、興味関心を引き出すようにする。

4 まとめ

【調査結果の概要】

〈全体〉

- 内容のまとまりごとの正答率では、地理的分野の「世界と日本の地域構成」を除く各内容で概ね満足できる状況である。
- 評価の観点別に集計した正答率では、「資料活用の技能・表現」が比較的低かった。
- 5問あった文章を記述して、答える設問の無答率が高かった。

〈地理的分野〉

- 「世界と日本の地域構成」…本初子午線が通過する国を答える設問や日本の領域を日本、北極のそれぞれを中心にした地図を基に答える設問の正答率が低かった。
- 「地域の規模に応じた調査」…縮尺の大きな地図の活用など、おおむね満足できる状況であるが、統計資料を基に地域の産業の変化を説明する設問の正答率が低かった。

〈歴史的分野〉

- 「歴史の流れ」…おおむね満足できる状況であるが、年代の表し方を答える設問の正答率が低かった。
- 「古代までの日本」…時代の特色を表す資料や他の時代と比較して、弥生時代の特色を答える設問の正答率が低かった。
- 「古代・中世・近世の文化財」…各時代の文化財を年代順に並べるなど、複数の時代またがる知識は定着している状況である。

【今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点】

〈地理的分野〉地図活用の場면을積極的に設定する

- 世界と日本の地域構成では、世界のニュースやイベント、環境問題等の中から、生徒が興味・関心をもつ出来事を教材にする。その際、地球儀や様々な地図を活用して位置や地名を確認する学習活動を積極的に取り入れる。
- 身近な地域の調査では、フィールドワークの際に縮尺の大きな地図（5千分の1や2千500分の1）を持参して、直接経験地域の読図学習を取り入れる。

〈歴史的分野〉年表活用の場면을積極的に設定する

- 個々の考えを書かせる機会を確保し、単に書かせるのではなく、いくつかのキーワードを示し、時代の特色などを説明する文章を書かせる学習活動を取り入れる。
- 単元のまとめの振り返りで、学習した時代の特色を年表等でまとめる学習を年間計画に位置付ける。その際、年代や時代の表し方の指導を充実させる。さらに、作成した年表等を活用して他の時代と比較させる学習活動を取り入れる。